



明峰

令和7年5月21日

第4号

校長 岡野利男

※第1号でお伝えしましたが、基本的に、私の学校だよりは、自身の思いや考えを、自由に書き連ねるスタイルです。ただ、今回ばかりは方針変更。5人のリーダーに一言ずつもらいました。

体育大会を終えて

歴代最高のソーラン節… 私が、このフレーズを初めて耳にしたのは、4月7日-始業式、**3年1組中屋桜子さん**による決意発表の折でした。「保護者や地域の方に感動を与え、応援したいと思ってもらえるソーラン節を実現させます。」… 1か月半前の出来事です。

まあ、なんと立派な演舞であったことか、そして、なんと見事な体育大会だったことか。恥ずかしながら、私は、大会の最中に何度も感極まってしまいました。

『中学生の元気、ひたむきさ、さわやかさ、本気、笑顔は、周囲に伝播していくもの。』 中学教師として、私は、いつもそう思っています。だから、中学生は不思議な力を持つ存在… ずっとそう思ってきました。明峰の5月18日は、まさに、私が漠と感じていたことに、輪郭を示してくれるものでした。すごい体育大会でした。

なんと素敵な学校なのだろう…。子供たちのことを、子供たちの闘いを、そばで支え続けた職員のことを誇りに思います。



実行委員長 富永 尊 (3年1組)

今回の体育大会で一番心に残っているのは、最後の挨拶です。練習の時から、全校生徒の前に立つたびに、一人ひとりの成長を感じられたからこそ、大会当日、最後に迷いなく僕は叫ぶことができました。その声に、全力で応えてくれたみんなの姿が本当に嬉しかったです。仲間とともに最後まで諦めず、勝利という共通の目標に向かって団結し、努力を続けた体育大会。この体育大会で得た力を、これからの学校生活や生徒会活動にも生かしていけるよう、これからも全力で頑張ります。ありがとうございました。

赤団団長 近藤 悠人 (3年1組)

体育大会を終えて、最も印象に残っているのは、行進のはじめに響いた掛け声の瞬間です。静まり返ったグラウンドに、自分たちの声が力強く響き渡り、「いよいよ体育大会が始まるんだ」と実感しました。仲間とともに練習を重ねる中で、少しずつ掛け声や足並みがそろい、

仲間と気持ちが一つになっていくのが分かりました。一人ひとりの努力が団の力となり、「勝ちたい」という思いが高まっていく様子に、団長としてのやりがいを感じました。本番の行進は、まさにその集大成であり、私にとって最高の思い出です。

青団 団長 神宮 琉人 (3年2組)

体育大会を終えて、心に最も残っているのは、勝敗ではなく団結力です。今年は「歴代最高」を目標に掲げ、日々の練習に全力で取り組みました。校庭に響く仲間の声や足音、真剣な眼差しに背中を押され、団長としてのやりがいを感じる毎日でした。当日は、息の合った行進、声を枯らして仲間へ届けた声援、それに応えて全力で走る一人ひとりの姿に、青団の強い絆を実感し、勝敗を超えたかけがえない時間となりました。

明峰中全員でつくりあげた「歴代最高」が、来年以降も受け継がれていくことを願っています。

黄団 団長 荒木 隆人 (3年3組)

体育大会を終えて、仲間の大切さをあらためて実感しています。ここで、感謝の気持ちを伝えたいと思います。まず、黄団の皆さん。全力で取り組む姿があったからこそ、最高の体育大会になりました。ありがとうございます。3年3組の皆さん。どんな困難も皆と一緒にだったからこそ乗り越えられました。ありがとうございます。そして、応援リーダー。いつもそばで支えてくれたおかげで、歴代最高の黄団をつくることができました。ありがとうございます。

こんな素晴らしい仲間に出会えたことを、心から誇りに思います。

生徒会長 竹内 葵泉 (3年3組)

体育大会は、多くの人の協力があって実現した最高の舞台でした。この場を借りて、心から感謝を伝えます。ありがとうございました。

私はこの体育大会を通じて、「つながり」の大切さを強く感じました。団長の想いが団員へ届く瞬間、伊東先生からソーラン節への想いを受け取った場面など人と人の心がつながる場面がたくさんありました。

私自身も、生徒会長として皆の士気を高めたいという思いで臨み、多くの人と気持ちを一つにできたことが嬉しかったです。この経験を生かし、これからの学校生活や行事でも「つながり」をさらに広げていきたいです。